

# 教区だより

2016

10月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

第335号



2 3

特集

## 「イスラムとは②」

～インタビュー ムスリムの祈りとモスク～ を掲載します。

4

## 出会いの窓 拡★版

但馬組教徳寺よりお誘いを受け、  
7月23日に行われた「お寺で夕涼  
み会」を取材しました。

5

連載

## 大乘仏教一釈尊観の深化<sup>しんか</sup>一

《第6回》 ジャータカ物語の出現（2）

おだ あきひろ  
織田 顕祐 氏

6

京都教区の動き

7

京都教区教化レポート（教区合唱団）



## インタビュー — ムスリムの祈りとモスク

前回に引き続き、アフガニスタンより留学されている、ムハンマド・セディックさんへのインタビューです。

タリバン政権前には父を殺害され、タリバン支配地域から、現在学生として留学されています。

ムスリム(イスラム教徒)の生活や、祈りの姿、モスクについてお聞きしました。

うではありません。しかしタリバンの支配下では、罰せられてしまいます。今の政府ではそんなことはありません。

モスクは家族で行くのですか。

家族はアフガンにいますので、京都のモスクには友人と行きます。アフガンのモスクは、モスクによって違います。男性だけのスペース、家族のスペースがあります。大きなモスクならスペースがあれば、もちろん家族で行きますが、小さいところはそれぞれの家で家族で祈ります。

モスクはどんな場所なのでしょう。礼拝をする場所だけなのでしょうか。

日本のお寺と同じように、コミュニティベース(地域社会単位)でいろいろしています。物事を決めようと集まったり、ワクチンの予防接種をしたり、投票もします。男でも女でも子ども誰もが来ることができます。

そういう面では日本のお寺と似ています。そういうこともあるのか、日本のお寺に行くと

スピリチュアル(精神的)に似たことを感じます。

日本の宗教や仏教についてご存知ですか。

日本の仏教については詳しく知りません。ただアジアにおいて一番たくさんの人々が信じている宗教だと理解しています。

仏教の儀式は見ていますが、宗派を聞かれるとわかりません。自分の宗教とは違うけれども信者が来られていて、同じようにその人のそれぞれの宗教を信仰しているのだなという感じがあります。

仏教寺院は、歴史の中で災害や病気から守るという役割を持っていたんですね。訪れたときに知りました。

モスクは私たちでも行けますか。

よくわかりませんが、イスラム教徒だけというところもあるようです。コーランや規則にあるのかどうか知りませんが、イスラム教徒の私としては誰もが訪れることができる場所であるべきだと考えています。

イスラム教では、仏教の帰敬式、キリスト教の洗礼などのような名前はありますか。

そういうことはありません。ただひとつの言葉があります。「神はただ一人であり、その

日本の生活でイスラム教徒として難しいことはありませんか。

日本で生活するのに困難は感じません。祈りは金曜日に、モスクの京都イスラミックセンターです。ハラール食(※)もあります。私もリラクセスしています。学生でもあり、アフガニスタン(以下アフガン)にいる家族のこともあり、忙しく、一日五回もなかなかできていません。少し怠慢かなと感じます。

アフガンでも一日五回しているかといえそ

メッセンジャーはムハンマド(※)である」そういうイスラムの文章があります。それを言った時イスラム教徒と言えます。

だからいつとは言えないと思います。子どもの時からそうですから。ただ男性で十四〜十五才、女性で十五〜十六才で成人とみなされるので、年齢でいえばその頃と言えますが、はつきりこの日というのはありません。

日本には住職や寺に住む人がいます。モスクには誰がいてどう運営されていますか。

モスクはコミュニティ(地域社会)によってサポートされています。モッラーがいて、五人〜十人の生徒がっています。モスクの中には住む場所があり、生活しています。一日に五回祈りや、儀式をします。

給料は政府から支払われています。また地域に裕福な人がいれば、家具を買ったりなど、金銭的なサポートをしています。

結婚することも許され、結婚したら家族もモスクの中に住みます。格好はひげを生やして、ターバンを巻きますので、いかにもモッラーらしい様子ですが、生活は一般の人と同じです。学校にも行きます。

モッラーになるには資格がいますか。

モッラーになるためには特別な資格はありません。

モスクは政府から支払われています。また地域に裕福な人がいれば、家具を買ったりなど、金銭的なサポートをしています。

結婚することも許され、結婚したら家族もモスクの中に住みます。格好はひげを生やして、ターバンを巻きますので、いかにもモッラーらしい様子ですが、生活は一般の人と同じです。学校にも行きます。

モッラーになるには資格がいますか。



お名前のセディックとは、「誠実」との意味があるそうです。何も知らない私たちに、穏やかにわかりやすく教えていただきました。異なった信仰に生きる者が出会おうということは、相互の理解にとどまらず、自らの信仰内容が確かめられてくると感じました。

協 力 別符 はるか(組織部国際室)

蓮岡 修(きんだあらんど店主)

(取材・編集 出版小委員会)

# 出会いの窓 拡大版

## ～但馬組 教徳寺「お寺で夕涼み会」～

兵庫県のほぼ中央、日本海と瀬戸内海の分水嶺<sup>ぶんすいりょう</sup>に位置する朝来<sup>あさこ</sup>市生野町。周囲を山々に囲まれた人口約4千人の町は、古くから日本有数の鉱山である生野銀山を抱え、最盛期には1万5千人もの人々が暮らしていたという。

昭和48年に閉山された鉱山のほど近くに、8つのそれぞれ異なる宗派の寺院が立ち並ぶ。かつては、銀や銅の採掘に全国から坑夫が集まったため、様々な宗派の寺院が建立され、生野町だけで21もの寺院が現存する。



実行委員会のみなさん



門徒総代の清水勉さん

午後3時、教徳寺を訪れると境内にはテントが立てられ、夕涼み会の準備に門徒の方々が駆け回っておられた。門徒総代の清水勉さんにお話を伺うと、7年前に始まったこの夕涼み会は、18名の子ども行事実行委員会で組織され、毎年夏休みに入って最初の土曜日開催される。年配の総代だけでなく、子どもを持つ親の世代である30～50歳代の若い方々や婦人会役員など、ビールを片手にみんなが和気あいあいと子どもたちを迎える準備を進める様子を、清水さんはこやかに眺める。「みんな楽しそうにやってるでしょう？」

この催しをするきっかけとなったのは、地域の中にある寺の役割を考えたことであったという。自分の寺の名前も、場所さえ知らない子どもたちもいる。このままでは将来誰も寺に来なくなってしまうのではないかという危機感から、子どもたちが楽しみに来れるようなことを始めないかと相談。こうして教徳寺夕涼み会は始まり、昨年は門徒であるなしに関わらず、100人近くの地域の子どもが来場した。



住職のお話と紙芝居



まずは本堂でお参り

午後5時を過ぎた頃から、待ちきれない子どもが次第に集まりだした。母親に手をひかれて歩く幼児から、練習終わりのユニフォーム姿のままで連れ立ってくる小学生、孫と一緒にやってくる老人まで、幅広い世代が三々五々やってくる。一つ工夫されているのが、来られた方々は、まず本堂に入らなければならない仕組みになっていること。参詣席の正面に焼香台<sup>あいさう</sup>が置いてあり、その横に住職の佐竹薫さんが座っている。挨拶を交わし、焼香を終えてから、出口にある受付で引換券がもらえるという仕組み。このことについて、総代の永田善一郎さんは、「子どもにとって、本堂に上がって手を合わすという、そのことが大切な経験になる」と、走り回る子どもを眺めながら話される。寺とのつながりが薄くなった今だからこそ、こうした経験は将来の教徳寺にとって、また子どもたちにとって意味のあることなのだ。

午後6時、山の稜線に陽が隠れ、心地よい風が境内を吹き抜けると、本堂の正面では読み聞かせの活動をされている実行委員の方より「はだかの王様」の紙芝居が始まった。焼きそばのソースが焦げる匂いと、ポン菓子の破裂音の中、境内には気が付くと人が溢れかえっている。

年に一度の夕涼み会を楽しみにしているのは子どもたちだけではない。子どもたちを迎え入れる大人たちの笑顔と笑い声が、静かな山村の夏の夕暮れにこだまする。(編集委員・藤川秀行)



大人も子どもと一緒に楽しむ



今回は、釈尊観の深化の一面として「ジャータカ物語」が生まれたことを指摘しました。そこで今回は、その内容を具体的に紹介します。古代インドのバールフットの仏塔に刻まれた最も古いジャータカの一つである「鹿王ろくおう本生ほんじょう」という物語です。

昔、菩薩(前生の釈尊を指す)は鹿の王様(鹿王)であった。立派な体格で数千頭もの群れの王であった。ある時、国王の狩りによって、群れは散り散りになってしまった。多くの仲間が亡くなり傷ついたので、「私は群れの王である。仲間のためによい場所を選

んで群れを移そう。群れがこのようになったのは、私の罪である」と悲しみにくれた。

とある国の宮殿の前に至ると、跪ひざまずいて「私たちは普通に暮らしておりましたが、突然に獵師に出会い命からがら逃げてきました。みなさんも肉が必要でしょうから、私どものほうで生贄いけにえを差し出しますから他のものをお助けいただきたい」と申し上げた。王は、「必要なものは一日に一頭である」と言った。

鹿王は戻って、群れの鹿たちに事の次第を話して、幸不幸を説いて聞かせた。群れの鹿たちは皆ひれ伏して聞いていたが、それぞれに(先に行くものは、その都度つど死んで行くのだ)と我が身の程をわきまえたのであった。鹿王は、「この世の全てのものは皆死んでいくのだ。誰もそれを逃れることはできない。道々仏の慈悲の心を念じながら行くのだ。あの人間の王に対して恨みを起こしてはならない」とくる日もくる日も説いて聞かせた。

妊娠しているものに順番がまわった。「私がいちのちを失うことはやむを得ません。しかし、子供を産むまでおゆるしください」と嘆願した。それで、次のものを代わりに当てようとするので、泣き出して、「私は今死ぬのですね。どうか一日一夜の命乞いをお願い

たします」と哀願した。鹿王は、彼らのいのちを奪うことができなかったため、明るる朝自分自身が王宮に行った。

王宮の料理人がそれを知り、直ただちに王に知らせた。王の前で、鹿王が丁寧にいきさつを申し上げると、王は急に青ざめて、泣きながら、「けものがこのような慈悲を持つとは一体どういうことか。これは古いにしえの聖人の行いではないか。私は人間の王である。毎日毎日生きもののいのちを奪って自分の糧かたとしている。どうして人の王が獣王に劣ってよいのか。私には天を奉ずる徳があるのだ」と言った。王は、鹿王を群れに帰し、国中に殺生せつじょうを禁ずる命令を出した。その後、人々は慈悲のころを大切にしたので国中はとても平和になった。

仏は比丘たちに、「その時の鹿王とはこの私である。国王とは舍利弗しゃりほつである。菩薩が無上の慈悲と智慧によって布施行を実践するのはこのようなことである」と告げた。

最も古いジャータカの一つである「鹿王本生」はおおよそ以上のような内容です。内容を分かりやすく説明するために、「菩薩は」としましたが、このような言い方になるのはもう少し後のことです。

## 京都教区の動き

### 二〇一六年度 教師試験検定準備学習会

七月二十五日(月)～三十一日(日)の一週間にわたり、教区会館において、二〇一六年度教師試験検定準備学習会が開催された。教区内外より合計三十二名の参加があった(教区内十五名、教区外十七名)。

受講生は、声明作法に始まり、仏教学、真宗学、教化、法規の各科目の講義を受け、八月二日(火)～三日(水)に本山宗務所で行われる教師試験検定に向けての学習を進めた。

(駐在教導 梅溪)

### 第三期子ども会サポート

八月一日(月)～五日(金)迄の五日間、近江第十組寶満寺にて、お寺の子ども会が開催された。寶満寺は、教区青少年小委員会の「お寺の子ども会サポート事業」の対象寺院であり、門徒方から「子ども会を開催したい」との思いを受け、この事業に応募されたこと。副住職を中心に門徒方と企画を練り、今回開催の運びとなった。

子ども会には、連日地域の子ども二十人近くが参加し、サポートスタッフによるお楽しみゲームや、普段は見ることの無いお寺の

様々な場所を探検したり、鳴り物体験と称して、喚鐘、梵鐘を実際に叩いてもらうなどした。その他にも、地元から講師を招いて愛荘町名産の折り紙体験を行うなど、地域との連携も図っていた。



二日目からは、子ども会の前に宿題をする時間を設け、子ども達はそれぞれ持ち寄った学校や塾の宿題に真剣に取り組んだ。最終日には流しそうめんが振る舞われ、四十人近い子ども達が集まり大賑わいの締めくくりとなった。

(書記 益田)

### 第五十九回 児童大会

八月八日(月)～十日(水)にかけて、第五十九回児童大会が、こんぜの里(滋賀県栗東市)にて開催された。テーマ「いのちのちのちのぬくもり」のもと、ご縁のある児童四十二名が参加した。

初日は、日産リーフの森まで夜間ハイクをして、満天の星空を見上げながら仲間との交流を深めた。二日目は、猛暑のため午後からの日程を変更したが、甲賀の里忍術村で参加者全員が忍者に扮して様々な忍術修業に励み、頑張る心や協力する心を学んだ。夜は肝試しに挑戦した。三日目はみんなで色紙交換をし、参加者一人ひとりにスタッフから心のもった免許皆伝の巻物が授与された。この三日間の児童大会での生活や、「いのち」との出会いを大切にして、これからも色々なことに挑戦してほしい。

初日、不安そうだった子が三日目には率先して感話をしてくれたことや、数年前まで参加者だった人がともにスタッフとして参加して支えてくれたことがとても嬉しく、心に残る児童大会であった。

(青少年研修小委員会委員 三原 浩美)



## 京都教区教化レポート

### 【京都教区合唱団】

一人でも多くの仲間と一緒に仏教讃歌を歌いたい。この願いが遂に京都教区でも成就しました。宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を機縁として、二〇〇九年六月に発足したのが京都教区合唱団です。

二〇一〇年十月三十日、京都コンサートホールで開催された、京都教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会に、八十三名の団員が初めての舞台に立ちました。全九曲、四十分もの長時間に及ぶ演奏に、会場は深い感動に包まれ、その様子は大きく写真入りで報道されました。

それ以降、御正忌報恩講コンサート、大谷婦人会全国大会を始め、多くの宗門行事に参加、仏教讃歌による教化活動を精力的に行っています。

現在の団員数は四十五名。休憩時間にはお茶とお菓子をいただきながら歓談する、笑顔の絶えない楽しい雰囲気での練習には、よろこびを、安らぎを求めて常に三十名程の方が来られています。一月には新年会も予定され、コンサートへの参加はもちろんのこと、いろいろな楽しい集いを計画しています。

入会は随時OK。お尋ねは、京都教務所まで。

(京都教区合唱団団長 村上宗博)

## 事務連絡

### 《住職任命》

二〇一六年八月二十八日付

但馬組 常光寺  
近江第六組 蓮行寺  
出雲組 専称寺  
近江第一組 聞名寺

〔届出順〕

鷗 智行  
藤堂 峰久  
藤原 良介  
横田 明詞  
〔敬称略〕

### 《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

〔届出順〕

山城第一組 永念寺前住職 多田 周覚 九十四歳  
二〇一六年四月十六日  
山城第二組 長堅寺坊守 穴太 君子 九十歳  
二〇一六年七月三十日  
山城第三組 聖財寺住職 岩田 忍 九十一歳  
二〇一六年八月八日  
近江第二組 發願寺前住職 内藤 正 九十歳  
二〇一六年八月六日  
山城第二組 法光寺坊守 春日 晴生 八十三歳  
二〇一六年八月四日  
〔敬称略〕

### 《真宗本廟御法要のご案内》

本年十一月二十日・二十一日は、このたびの御修復工事が完了したことを三宝に奉告いたします。「真宗本廟両堂等御修復完了奉告法要」をお勤めし、続いて二十一日から二十八日まで、宗祖の御正忌報恩講が厳修されます。みなさまの参拝を心よりお待ち申し上げます。

●京都教区専用受付の設置

【設置期間】十一月二十日～二十八日

【設置場所】真宗本廟白洲

【受付対象】京都教区内参拝者

※個人で参拝される方、また本山に団体参拝を申請された団体につきましても受付の対象です。

記念品をご用意しておりますので、ぜひ受付にお立ち寄りください。

### 《東本願寺出版刊行物のお知らせ》

『仏教ハンドブック

—子ども達と聞く仏さまの教え—』

仏教を学ぶための参考書。仏教に関する九十五のテーマを掲載。



価格 一五五五円  
(税込)

■ 京都教区教化テーマ ■

今いのちがあなたを生きている  
 声にむかひ いのちの声 感じあひ いのちのむかひ

◆ 教区事業予定

10月 1日(土)	14:00~21:00	拾学舎(教学・声明作法研修会)	会場◇教区会館2F	大講堂
10月 6日(木)	13:30~17:00	出版小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
10月13日(木)	15:00~17:00	育成員等研修小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
10月25日(火)	13:30~16:00	同朋の会サポート説明会	会場◇教区会館2F	大講堂
	15:00~17:00	教区改編委員会	会場◇教区会館2F	大講堂

◆ 地区・団体事業予定

10月 3日(月)	16:00~18:00	准堂衆会	会場◇教区会館3F	研修室
10月11日(火)	10:00~16:00	坊守会常任委員会	会場◇教区会館3F	研修室
10月12日(水)	9:00~16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
	14:00~17:00	靖国問題学習会	会場◇教区会館3F	会議室
	18:00~20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
10月14日(金)	13:00~17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
10月19日(水)	18:00~20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
10月21日(金)	15:30~18:00	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館3F	研修室

「教区だより」記事大募集中!

今月の「出会いの窓」は、但馬組教徳寺「お寺で夕涼み会」のレポートです。教徳寺さんから出版小委員会に取材のご依頼をいただき、お邪魔させていただきました。

京都教区には695ヶ寺の寺院があります。それぞれのお寺にはそれぞれの背景があり、そこにあるお寺の風景は様々です。「教区だより」は、今後もこうした取材のご依頼をお待ちしております。どのような取材でも構いません。取りあげてほしい取り組みなどの情報がありましたら、まずはご一報ください!

(出版小委員会主査 藤川秀行)

※連絡先は、京都教務所。住所・電話番号・FAX番号・メールアドレスは下記の通りです。

「教区だより」第335号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016(平成28)年10月1日  
 発行人 錦 秀見(真宗大谷派京都教務所長)  
 発行所 真宗大谷派京都教務所  
 〒600-8164  
 京都市下京区花屋町通烏丸西入  
 Tel: 075(351)5260  
 Fax: 075(351)5256  
 メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp  
 ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note 編集後記

京都教区に駐在として着任して1年が経ちました。目の前の仕事をこなす日々の中で、あっという間に時間が過ぎてしまった、というのが実感です▼そんな日常の中であっても、様々な方と出会い、お話を伺うことができます。『教区だより』の取材で出会う方々からも、形こそ違え、「こんなことがしたい!」という熱意は共通していると感じます▼出会った方々の「熱」が、自ら動こうとしない「私」を動かしている、改めて教えていただくことです。(駐在教導 梅溪 真人)